

2024年3月10日
宮崎中部教会主日礼拝
牧師 乾元美

詩編 103 : 14~16

エフェソの信徒への手紙 6 : 10~20

「主の力によって強く」

(ハイデルベルク信仰問答 祈りについて 問 127)

※信仰問答は「日々の祈り」をご覧ください。

【招詞】 詩編 68 : 20~21

【讚美歌】 25 「父、子、聖霊に」

【詩編交読】 詩編 3 2 編

【赦しの宣言】 イザヤ書 55 : 7 「主に立ち帰るならば、主は憐れんでくださる。

わたしたちの神に立ち帰るならば／豊かに赦してくださる。」

【讚美歌】 300 「十字架のもとに」

【祈祷】

【聖書】 詩編 103 : 14~16、エフェソの信徒への手紙 6 : 10~20

【説教】 「主の力によって強く」

<主の祈りの最後の願い>

主の日ごとに『ハイデルベルク信仰問答』から「主の祈り」の内容について、一つずつ御言葉に聞いてきました。

今日は、「主の祈り」の最後の、第六の願い、「われらをこころみにあわせず、悪より救い出したまえ」というところです。これを易しい現代の言葉に直すと、「わたしたちを誘惑におちいらせず、悪からお救いください」となります。

この直前の、第五の願いでは、「わたしたちの罪をおゆるしてください。わたしたちも人をゆるします」ということを祈りました。

わたしたちは、神の御子イエスさまの十字架の血によって、罪を赦され、神の子とされ、新しくされた者です。しかし、それにも関わらず。なお、わたしたちは罪を繰り返し、神さまの御心に従えずにいます。

ですからイエスさまは、わたしたちに、今日も、イエスさまの十字架によって、わたしたちの罪を赦してください。今日も、神さまの愛の御心に従って、わたしたちも隣人を愛し、敵をゆるして歩む者とならせてください。そう祈りなさいと、教えられました。

そして、この「罪のゆるし」に続いて祈るべきことが、「わたしたちを、こころみにあわせず／誘惑におちいらせず、悪からお救い下さい」という祈りなのです。

<こころみ、誘惑とは>

さて、この第六の祈り、「こころみにあわせないでください」という祈りの意味について。

中には、「苦しみや、悩みから、免れるようにしてください」とか、「あらゆる、苦難や災いから遠ざけてください」というような、わたしたちの平穩無事な生活を求める祈り、安全祈願のような祈りだと思われる方があるかも知れません。

でも、ここで言う「こころみ」という言葉は、「試験する、実験する」という意味を持つ言葉です。つまり、わたしたちを試験から、免れさせてください、と祈っているのです。

では、わたしたちは、何を試験されるのでしょうか。それは、信仰です。

わたしたちの信仰が、本物かどうか。まことの神さまのみを神として礼拝し、ただ神さまにのみ、より頼んでいるか。あるいは、見せかけの信仰で、実は神さま以外のものにより頼んで、心を寄せて、神さまの御心に背いていないか。

ここではそのように、わたしたちの信仰が試され、明らかにされるようなことに、遭わせないでください、と願っているのです。

…信仰を与えられて、救われるということ。それは、苦難が来なくなるとか、安心な生活が保障されるとか、そういうことではありません。やはり、わたしたちはこの世で生きていく上で、平安な日もあれば、波風の立つ日も必ずあるのです。

でもそのような人生の中で、わたしたちの本当の救いとは。まことの神さまを知り、神さまに愛されていることを知り、神さまと共に生きることです。

平穩な時でも、たとえ苦難の時でも。わたしたちの命をお造りになり、どんな犠牲も払ってくださるほどに深く愛し、歩みを正しく導き、恵みを注ぎ続けて下さる神さまが、片時も離れずに、いつも共にいてくださること。そのことこそが、わたしたちの救いであり、希望であり、慰めなのです。

このことを信じる信仰を与えられているわたしたちが、生きていく上で、心を試されるようなことがある。イエスさまに従う者とされたからこそ、信仰者だからこそ、こころみにあい、まことの信仰に生きていくかどうかを、問われることがあるのです。

<わたしたちの弱さ>

さて、わたしたちが、信仰を問われる時。こころみにあう時。本当は、こう言いたいところ。「どのようなこころみにも耐えられます。神さまにのみ従います。いただいた救いの確信は、揺らぐことはありません。」そう、はっきり言えたらよいのです。

なぜなら、わたしたちは、既に神さまに救われているからです。既に罪を赦されているからです。既にイエスさまと結ばれ、神の子として、聖霊を受けて、歩んでいるのです。

では、なぜわたしたちは、こころみにあわせないでください。わたしを試さないでください。そう祈らなければならないのでしょうか。

それは、わたしたちが、その試験に耐えられないほど、弱いからです。試されたら、わたしたちの弱さが、ますます明らかにされるから。わたしたちの罪が、ますます露わにされるから。わたしたちは、簡単にそのような試験に落ちこちてしまうから。

だから、こころみにあわせないでください、と祈るのです。

今日の『ハイデルベルク信仰問答』問 127 の答えの最初には、こうありました。

「第六の願いは何ですか。」「答『われらをこころみにあわせず、悪より救い出したまえ』です。すなわち、わたしたちは自分自身あまりに弱く、ほんの一時立っていることさえできません。」

わたしたちは、自分で立っていたことなど、ほんの一時さえないのです。この自分自身のあまりの弱さを。あまりの罪深さを。わたしたちは、認めなければなりません。

<わたしたちの恐ろしい敵>

さらに、世の中には、こんなにどうしようもなく弱いわたしたちを、絶え間なく攻撃してくる、恐ろしい敵が存在しているといえます。

『ハイデルベルク信仰問答』は、そうやってわたしたちを危険に陥らせ、神さまへの信頼を失わせ、恵みを疑わせ、神さまから引き離そうとする恐ろしい敵について、答えのところで、三つのものを挙げています。

「わたしたちは自分自身あまりに弱く、ほんの一時立っていることさえできません。その上わたしたちの恐ろしい敵である、悪魔やこの世、また自分自身の肉が、絶え間なく攻撃をしかけてまいります。」

ここには、「悪魔」、「この世」、そして「自分自身の肉」が恐ろしい敵である、と語られています。

[自分自身の肉]

さて、後ろから見ていきますが、三つ目のところには、「自分自身の肉」とありました。

神さまから、わたしたちを離そう、背かせようとする敵は、外からだけでなく、自分の内にもあるのです。

これは、先ほど言いましたように、わたしたちの、どうしようもない弱さであり、疑い深さであり、また自己中心的な心の罪です。神さまの御心に従うよりも、自分の心、自分の願い、自分の計画に従って歩もうとする、わたしたちの不従順な心です。

「みこころの天になるごとく、地にもなさせたまえ」。そう祈っているが、神さまの御心になることを求めず、この地において、わたしの心こそが実現することを求めている。わたしたちの内には、いつもそのような、自分勝手な罪が、働いています。

ですから、わたしたちは日々、悔い改めて、「わたしたちの罪をおゆるしくください」と祈り。日々、イエスさまによって「あなたの罪は赦された」との宣言を聞いて、新しくされて、神さまの方に、心に向け直して、歩まなければならないのです。

そして、「わたしたちをこころみにあわせず、悪から救い出してください」と祈るのです。

わたしたちの弱さが、罪が、引き出されることのないように、あなたの力でわたしの弱さを覆ってください。わたしが罪を犯さないように。あなたから離れることのないように。

助け、守り、導いてください。そう祈るのです。

[この世①]

そして、答えにある、二つ目の恐ろしい敵として、「この世」とありました。わたしたちをこころみる出来事は、この世で、多く起こります。

まず、わたしたちは、病とか、貧困とか、事故とか、災害とか、あるいは人間関係など、わたしたちに苦しみや、痛みや、悲しみを与える出来事のことを思うかも知れません。

さらには、神さまに従う者は、神さまに背くこの世に、信仰のゆえに苦しめられることがあります。信仰があるから、辛い思いをする、ということがあるのです。

辛い、耐えがたい出来事の中で、わたしたちは、神さまの恵みが足りないように思い始める。神さまが憐れみ深い方であること、愛して下さっていることを、疑うようになる。神さまは、なぜわたしをこんな目に遭わせるのか。わたしの苦しみを無視しておられるのか。悲しみを与えて絶望させようというのか。そんな風に思い始めるのです。

人生の危機的な状況や、苦しみ、悩みは、わたしたちを大きく揺さぶり、混乱させ、信仰の目を曇らせます。

しかし、わたしたちは、そのような苦しみの只中にある時にこそ、イエスさまの十字架を見つめなければなりません。わたしの苦しみを、悲しみを、絶望を担うために、イエスさまは十字架に架かり、血を流し、叫ばれ、絶望を叫んで下さったのです。わたしたちの最も深い絶望を、イエスさまがすべて背負って下さったのです。この方が、わたしを、どん底の、底の底から、支えて下さっているのです。

わたしたちの救いとは、そのような悲惨のどん底のようなところにも、救い主であるイエスさまが共にいてくださる、ということにこそあるのです。

悲しみも、痛みも、死の恐れも、嘆きも。すべてを経験し、すべてをご存知でいてくださる方が、倒れ伏すわたしたちを担ってくださり、癒してくださり、慰めてくださる。そして、罪にも、悪にも、死にも勝利されたその御手で、わたしたちを天の国へと、神さまの命のご支配へと、導いてくださる。ここに、信仰を持つ者の、本当の希望があります。

わたしたちは、苦しみの時にも、いや、苦しみの時にこそ、このことを、確かに信じることができるように。「こころみにあわせず、悪より救い出したまえ」。そう祈るのです。

[この世②]

しかし、また一方で、「この世」という敵には、もう一つの側面があります。それは、先ほどとは反対に、この世において、満たされることによる、こころみです。

健康が与えられ、富に恵まれ、人々に賞賛され、何一つ不自由がないことが、わたしたちを神さまから引き離す、大きな誘惑となることがあります。

困難なことは何一つない。日々の生活に満足し、人もうらやむ人生を送っている。

そんなとき人は、自分が生きるために、神さまの恵みが必要である、助けが必要であるということをつっかり忘れてしまいます。そうすると、祈りの熱心さ、切実さを失います。

やがて、与えられているものは、すべて神さまからの賜物であるということを忘れ、感謝の心を失います。すると、溢れるほどの恵みが、当たり前ようになってくる。まるで自分の力で立っているかのように錯覚し、高慢になっていく。

この世の心地よさには、神さまへ向かう熱心さを失わせ、恵みをいただく喜びや、感謝の心を忘れさせる、恐ろしい誘惑があるのです。

このことに対しても、わたしたちは目を覚ましていなければなりません。

ここにもまた、神さまから遠ざけようとするところみがあることに気付き、鈍くなる心に用心し、祈りによって、いつも感謝を忘れないように。神さまを忘れてたり、恵みを見失ったりしないように、心しなければならぬのです。

[悪魔]

そして、最後は、「恐ろしい敵」の筆頭に挙げられていた、「悪魔」です。「悪魔、サタン」というのは、信仰者を神さまから引き離そう、遠ざけようとする力のことを言います。

悪魔が、どんな存在かを説明することは出来ません。また、そこに囚われることにも、あまり意味がありません。

しかし、わたしたちを神さまから引き離そうとする激しい力がある。わたしたちが、自分の力では抵抗することができない、大きな闇の力が、確かにこの世に存在している。

そのことは、教会の古の教父たちも、また宗教改革者たちも、近代の神学者たちも、しっかりと見つめてきたのです。

わたしたちは、祈りによってしか、これに抵抗することは出来ません。自分で悪魔と戦ったり、決闘したりして、勝てる見込みはまったくありません。悪魔の力をみくびってはなりません。また、自分が強いと、自惚れてはなりません。

先ほどから言われているように、わたしたちは簡単に神さまから離れてしまう弱さを、自分の罪深さを、よく知っておく必要があるのです。

だから、わたしたちは、ただ祈ることによってのみ。ただイエスさまと共にあることによってのみ、悪魔の手から逃れることが出来るのです。それが、唯一の対抗手段なのです。

悪魔に打ち勝つことが出来るのは、神の御子イエスさまだけです。

マタイによる福音書 4 章のところでは、まことの人となられ、地上を歩んでおられた御子イエスさまが、霊によって導かれ、荒れ野で悪魔の誘惑に遭い、そして勝利されたことが語られています。

この悪魔の誘惑というのは、まさに、神を拝むか、悪魔を拝むか、という信仰の戦いでした。しかし、イエスさまは、天の父なる神さまのみを神として拝み、悪魔を退けられたのです。そして、ご生涯の最後まで、天の父なる神さまに従い抜かれました。

ですから、悪魔との戦いは、すでにイエスさまが勝利され、決着が付いているのです。

しかし、まだ悪魔は、この世の終わりの日、神さまのご支配が完成するまでは、最後の悪あがきのように、信仰者たちを神さまから引き離そうとしています。

だからこそ、イエスさまご自身が、わたしたちにこの祈りを、教えてくださいました。「われらをこころみにあわせず、悪より救い出されたまえ」。

悪魔に勝利なさったイエスさまが、わたしたちにこの祈りを教えてください、イエスさまご自身が、わたしたちを悪から救い出してくださいます。

ですから、たとえわたしたちが悪魔に揺さぶられても。そして、もし仮に、倒されてしまうことがあったとしても。わたしたちは、イエスさまに祈り求めるならば、大丈夫です。

なぜなら、既に悪に勝利なさり、今は天におられ、すべてを支配しておられるイエスさまの御手に、わたしたちは、しっかり捕らえられているからです。

イエスさまが、必ずわたしたちを立ち上がらせて下さいます。わたしたちは、イエスさまのものです。この方から、わたしたちを引き離すことができるものは、何もありません。

だから、わたしたちはイエスさまの「主の祈り」を祈ります。「こころみにあわせず、悪より救い出されたまえ！」イエスさま、あなたがわたしの信仰を守ってください！イエスさま、わたしの手が弱っても、あなたの御手は、わたしを離さないでください！

問 127 の答えの後半は、このように締め括られていました。

「ですから、どうかあなたの聖霊の力によって、わたしたちを保ち、強めてくださり、わたしたちがそれらに激しく抵抗し、この霊の戦いに敗れることなく、ついには完全な勝利を収められるようにしてください」。

聖霊は、天におられるイエスさまと、わたしたちを、一つに結び付けてくださる霊です。

ですから、イエスさまがお遣わしくくださる聖霊の御力によって、この地上にあるわたしたちが、イエスさまの勝利の中に、保たれ、強められるように。そして、イエスさまにあって、恐ろしい敵に激しく抵抗し、戦い抜き、イエスさまが再び来られる日、救いの完成の日には、イエスさまの完全な勝利に、共に与らせていただけるように。

このことを「こころみにあわせず、悪より救い出されたまえ」という祈りは、願い求めているのです。

<主の力によって強く>

わたしたちは、自分の力に依り頼む限り、この外からの、内からの、悪魔からの、あらゆる誘惑に抵抗することは出来ません。打ち勝つ力も、強さも、何もありません。

しかし、父なる神さまに助けを求め、イエスさまと共にあって祈る時。自分の弱さを認め、力のなさを認め、神さまに助けを求めて依り頼む時。神さまから引き離そうとする悪魔の力は、祈ったその瞬間から、もう力を失い始めます。

わたしたちが、祈るということは、神さまに心を向け、助けを求め、御手にすがっていくということです。神さまに近づいていくということです。

その時、神さまからわたしたちを引き離そうとする力は、確かに力を失っていくのです。神さまに祈ること。これは、悪魔に、誘惑に対抗する、最も強い力です。

今日の新約聖書エフェソの信徒への手紙 6 : 10~11 にはこうありました。

「最後に言う。主に依り頼み、その偉大な力によって強くなりなさい。悪魔の策略に対抗して立つことができるように、神の武具を身に着けなさい。」

わたしたちが強くなるのは、主の偉大な力に依り頼むことによってです。わたしたちが、悪魔の策略に対抗して立つことができるのは、神の武具を身に着けることによってです。

あなたがたは自分で鍛えて、根性を決めて、強くなりなさい、とは言われていません。悪魔と対抗するための武具を、頑張っで自分で調達してきなさい、とは言われていません。

すべては、備えられています。わたしたちは、この弱々しい自分に、神さまの力をまともせていただくのです。神さまの真理を、神さまの正義を、神さまの平和の福音を、そして信仰を。さらには、救いをかぶり、霊の剣、つまり、神の言葉を、取るのです。

そして、18 節にはこうあります。「どのような時にも、“霊”に助けられて祈り、願い求め、すべての聖なる者たちのために、絶えず目を覚まして根気よく祈り続けなさい。」

これらの神の武具を身に着ける方法は、霊に助けられて祈ることです。だからわたしたちは、どのような時も、祈り続けます。「こころみにあわせず、悪より救い出したまえ！」

こうしてわたしたちは、祈りによって神さまに近づきます。

そうして、神さまから引き離そうとする悪魔の手から逃れ、ただ神さまのみを、まことの神として崇め、賛美し、礼拝する者とされていくのです。

思い起こせば、イエスさまが教えてくださった「主の祈り」は、「御名があがめられますように」。神さまが、まことの神としてあがめられ、聖とされ、礼拝されますように。そんな祈りから始まりました。

そして、「主の祈り」は最後に、「われらをこころみにあわせず、悪より救い出したまえ」と祈る。わたしたちを、神さまから引き離す悪の力から守り、わたしたちが、ただ神さまのみを、まことの神とし、礼拝し、賛美し、あがめますように。そう祈って閉じるのです。

「主の祈り」は、神さまのみ名の栄光から始まり、わたしたちが神さまに栄光を帰すことへと至ります。

その祈りの中で、「主の祈り」は、神の子として地上を歩むわたしたちを、包み込んで、救い上げて、わたしたちの心を、天の父なる神さまへと高く上げさせてくださる。声を合わせて祈るわたしたちを、共に、神さまと共にある慰めへ、平安へ、喜びへと、導いてくれるのです。

【お祈り】

天の父なる神さま

あなたに救われ、信仰を与えられ、神の子とされ、共に生きる幸いをいただいているにも関わらず、罪深い、弱々しい歩みしかできないわたしたちを、どうかお赦してください。

どうか、わたしたちをこころみにあわせず、悪より救い出してください。

あなたの恵みにとどまり、ただあなたのみを神としてあがめ、ただすべての源であるあなたにのみ、依り頼ませてください。

悪魔の誘惑に打ち勝ち、ご自分の十字架と復活によって、わたしたちを担い、罪から救い出し、起き上がらせてくださった御子イエスさまが、いつも共にいて、わたしたちを支え、守り、信仰に固く立たせていてください。

聖霊なる神さまが、わたしたちの祈りを導き、わたしたちが絶えず目を覚まして、根気よく祈り続け、悪の力に対抗することができますように、助けてください。

このお祈りをイエスさまの御名によって祈ります。アーメン

【讃美歌】 392 「主の強い御腕よ」

【信仰告白】 ニカイア信条

【十戒】

【献金】 65-1 「今そなえる」

【主の祈り】

【祈祷】

【讃美歌】 26 「グローリア、グローリア、グローリア」

【祝福】 主があなたを祝福し、あなたを守られるように。

主が御顔を向けてあなたを照らし あなたに恵みを与えられるように。

主が御顔をあなたに向けて あなたに平安を賜るように。

主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、

あなたがた一同と共にあるように。アーメン